

「浜松花と緑の祭2019」参加報告

1 日時：令和元年10月19日(土) 10:00~16:00
20日(日) 9:00~15:00

2 場所：浜松駅前アクト通り

3 参加者：内山・広野・藤田、他にボランティア3人

4 概要

- (1) 初日は雨模様で、午後から本格的に降り出し、人出も少なかった。二日目は雨も上がり、人出も多く、親子連れや高齢者などで賑わった。
- (2) 当ブースの出展内容は、①木のクラフトづくり、②木の実クイズ、③ヒマワリの宝の種さがして、それぞれの実施の状況は次のとおり。

● 木のクラフトづくり(担当：廣野)

①ペン立ての制作体験(1個100円)

木のクラフトづくりは、従来から本ブースのメインの「出し物」で、今年はウサギとカメ、スズメ、カメ、ワンちゃんの4種。

②ペン立てのキット販売(1袋200円)

上記のほかに、イノシシ・カエルを加え、2セットを1袋にして販売。キット販売は今回が初めてだったが、意外と順調で売り上げが伸びた。

③販売個数

○製作体験：初日7個、2日目21個、計28個

○キット販売：初日6個、2日目11個、計17個

○合計：体験28個、キット販売17個、合計45個

④その他

○参考に出品した、ムクロジの黒い実に目と銅線の手足を付けた人形が好評だった。

○木の実クイズの参加者に差し上げたドングリゴマのおまけも好評だった。

● 木の実クイズ(担当：藤田、参加費無料)

① 木の実クイズは、木のクラフトづくりと同様、従来から出展している「出し物」で、今年は木の実12種を展示し、木の名前を書いてもらった。

② 今年の問題を易しくしたこともあり、中高年の女性に人気があった。

③ 参加者は、初日が22人、2日目が40人で、計62人。

● ヒマワリの宝の種さがし(担当：内山、参加費無料)

この「出し物」は今回が初めてなので、できるだけくわしく書きたい。

① 内山さんが仕事場の天竜農場で主宰している「いわた笑楽未来塾」の活動の一環でたくさんのヒマワリの種を採取したが、中身がないもの(「しいな」)が大半だったので、実の詰まった良い種を「宝」と称して、参加者に選別して持ち帰ってもらうという出し物。

② また、フウセンカズラの種が欲しい方には、持ち帰ってもらった。

③ 参加者は、初日がヒマワリ11人、フウセンカズラ10人、2日目はヒマワリ46人、フウセンカズラ18人で、合わせてヒマワリ57人、フウセンカズラ28人、計85人であった。

④ 参加者は、親子連れの小学生がほとんどで、終盤になって年配の女性の参加もあり、「ヒマワリの種を触ったのは初めて」、アメリカ大リーグの「ヒマワリの種の吐き捨ててベンチの中が散乱」などの話をする事ができた。

● 参加者数集計

	木のクラフトづくり	木の実クイズ	ヒマワリの宝の種さがし
初日(19日)	13個	22人	11人(10人)
2日目(20日)	32個	40人	46人(18人)
合計	45個	62人	57人(28人)

(注) ()内の数字は、フウセンカズラの種を持ち帰った人数で、外書。

(報告とりまとめ：藤田)

会場風景



アクト通りの会場風景。約50個のブース(テント)が歩道の両側に並んだ。



当会のブース。出展内容は①木のクラフトづくり、②木の実クイズ、③ヒマワリの種の宝さがし。

出展の内容



ウサギとカメ、スズメ、カメ、ワンちゃんの4種。キットは袋入りのもの。



参考に出品した、ムクロジの黒い実に目と銅線の手足を付けた人形が好評だった。手足を曲げて、いろいろなポーズを作る。



木の実クイズは今年簡単かつ易しくした。写真の右下から、(機関車)・クロマツ・アカマツ・スギ・コウヤマキ・コナラ・クヌギ・シノキ・マテバシイ・モミジバフウ・ツバキ・サザンカ・チャ(車掌室)の12種を問題にだした。



内山会員が主宰の「いわた笑楽未来塾」で育てたヒマワリの種を使った、「宝の種さがし」。実の詰まった良い種を「宝」と称して、参加者に選別して持ち帰ってもらうという「出し物」だ。



実の詰まった良い種の選別。左上のトレイに入っている種が良い種。



フウセンカズラについては、ハートのマーク・サル顔・グリーンカーテンなどの話をし、欲しい人には持ち帰ってもらった。